様式４の３

一般財団法人　滋賀県民間社会福祉事業職員共済会
地域共生型社会推進事業助成金

事業完了報告書（公開用）

１、概要

報告日	西暦　２０２２　年　４　月　３０　日
報告者	代表理事　西川　嘉邦
助成団体名 （所属団体名）	一般社団法人　甲賀ナイスローカルカンパニー
団体住所	〒　528-0006 滋賀　都道府県　甲賀市水口町元町３番１４号
団体電話番号	080　―　6861　―　6171
代表者 （助成対象者）	代表理事　吉田　智之
助成対象事業	地域で活きる若者育成プロジェクト
事業（助成）期間	令和３　年　４　月　１　日　～　令和４　年　３　月　31　日
事業費総額	１，０２３，４６３　円
助成金総額	１，０００，０００　円

※住所・電話番号等は団体のものを記載し、個人情報に関わることは記載しないでください。

次ページ以降に「事業内容」、「事業成果」、「今後の課題など」を簡潔に記載してください。

注意事項

①共済会ホームページに掲載しますので**個人情報の掲載は禁止**します。

②「事業内容」、「事業成果」、「今後の課題など」は**合計５ページ以内**で作成してください。

③**写真の掲載は原則禁止**しますが、どうしても必要な場合は最小限度に留めてください。

④写真を掲載される場合は必ず撮影対象の方に事前に了承を頂くようお願いします。

⑤必ず Word ファイルのまま shigakyo@cello.ocn.ne.jp へメールにてお送りください。

２、事業内容

《概要》

いままでのまちづくり・むらづくりは事業を実行する実際のプレイヤーが不足していました。リスクを取り、地域課題の解決のために行動する若者が定住し生業を持てるような経済の仕組みが必要です。
　若者同士や社会的弱者が連帯し、草刈りや耕作放棄地などの地域の困りごとに取り組む仕組みを本事業で作りたいと考えました。

《個別事業》

１若者ミライ農業拠点の開設
・共有農具倉庫の設置
・【実施回数】（2022 年 2 月の 3 日間で設置）
・【対象者】理念を共有する 30～40 歳代の地域の若者と設置

２荒廃農地の草刈と地域コミュニティとの関係づくり
・荒廃農地や管理困難な地所の除草作業
・【実施回数】　のべ回数 14 回　（2021 年 7 月～2022 年 3 月）
・【対象者】地域の若者・のべ参加者 56 人

３パイロット農地の確保（３か所）
・荒廃農地の借受と再生
・【実施回数】のべ回数 42 回（2021 年 4 月～2022 年 3 月）
・【対象者】地域の若者・のべ参加者 107 人

４地域の子どもが参加できる農業イベントの開催（１回）
・原木しいたけ植菌打ち体験
・【実施回数】1 回（2021 年 4 月 10 日）
・【対象者】参加者数 11 組 34 人

５就労弱者との仕事おこしについての意見交換（１回）
・令和 3 年度甲賀市農福連携フォーラムのオンライン視聴
・【実施回数】１回（3/27）
・【対象者】法人理事５名で視聴し意見交換しました。

６イベントや対話を通じた次年度以降の仕事起こし計画立案
・【実施回数】12 回（毎月第 3 水曜日）
・【対象者】法人理事 6 名

３、事業成果

１若者ミライ農業拠点の開設
・【実施による成果】地域の困り事に取り組むために誰でも借りられる刈払い機や農具を整備できました。また、拠点ができたことで活動の周知効果が望めます。

２荒廃農地の草刈と地域コミュニティとの関係づくり
・【実施による成果】荒廃農地を耕作可能な状態にできました。また、令和４年度もコミュニティや管理者から農地と施設の除草について引き合いがある状況です。

３パイロット農地の確保（３か所）
・【実施による成果】借り受けた３か所についてすべて耕作ができる状態で維持できました。

４地域の子どもが参加できる農業イベントの開催（１回）
・【実施による成果】（アンケートの実施）地域の若い世代の参加があり、その後の事業を進める起爆剤になりました。参加者はマイ原木を持ち帰り、講師の説明で林産品や農林業への理解が深まりました。

５就労弱者との仕事おこしについての意見交換（１回）
・【実施による成果】農福連携の現状を理解できました。

６イベントや対話を通じた次年度以降の仕事起こし計画立案
・【実施による成果】理念から出発しメンバーが集い、耕作放棄地の再生や草刈作業などの課題掘り起しとその解消に取り組めました。また事業を通し仕事づくりの仕組みを一定確立できました。

４、今後の課題など

１若者ミライ農業拠点の開設
・【残された課題】借りるための手続きや問い合わせ先などを整理しなければならない。

２荒廃農地の草刈と地域コミュニティとの関係づくり
・【残された課題】除草を生業とできる建付けが未整理です。

３パイロット農地の確保（３か所）
・【残された課題】耕作地の一つは作付けできる労働力がなく年度末に返却しましnた。

４地域の子どもが参加できる農業イベントの開催（１回）
・【残された課題】特になし

５就労弱者との仕事おこしについての意見交換（１回）
・【残された課題】福祉作業所等と連携する場合にしてもらう作業の洗い出しができていません。

６イベントや対話を通じた次年度以降の仕事起こし計画立案
・【残された課題】理念に賛同し、活動に参加してくれる若者の確保・拡大する手法が確立していません。活動→法人が事業を通して地域の信用を得ていくサイクルが確立していません。安定的な需要の確保が難しいです。（地域がしてほしいことと、法人ができることがお互い分かっていない）→農福連携にも通底します。

継続的な課題とプレイヤーを把握することが、地域にとっても法人にとっても重要です。